

## 鳥博セミナー

## 「カモとハクチョウの冬の暮らし」



撮影：高木昌興氏

オシドリ



撮影：箕輪義隆氏

トモエガモ



オオハクチョウ

冬になると、川や池、沼などそれまで静かだった水面にカモたちが渡ってきて賑やかになります。すばやく移動しながら生活する小鳥と違ってカモは見つけやすく、鳥の中でも観察しやすいグループです。ガンカモ類（カモ科カモ類）はカモ類、ガン類、ハクチョウ類に分けられます。ガン類は北海道、東北地方など観察できる地域が限定されますが、カモ類は全国で見られ、ハクチョウ類もガン類と比較すればより多くの地域で観察できます。ここでは皆さんに身近なカモ類とハクチョウ類についてお話します。

このカモやハクチョウ、どこから来て、冬の間何をしているのでしょうか。宮城県北部の伊豆沼・内沼を例に、GPSロガーによって明らかになったカモやハクチョウの渡り、冬の暮らしぶりなど、水辺環境に適応した彼らの多様な暮らしをご紹介します。

身近に見られるということは、人との関わりが深いということを意味します。多様な暮らしをしているカモは、実はその水辺環境の状態を人に教えてくれる指標でもあります。その見方をお話します。さらに社会的に大きな問題となっている鳥インフルエンザ。給餌問題にも深く関わってきます。伊豆沼・内沼で実践してきたことが、各地での対策の参考になればと思います。

これからたくさんのカモやハクチョウが渡ってきます。その前に少し知識を仕入れていただき、彼らをより深く観察していただくきっかけとなれば幸いです。

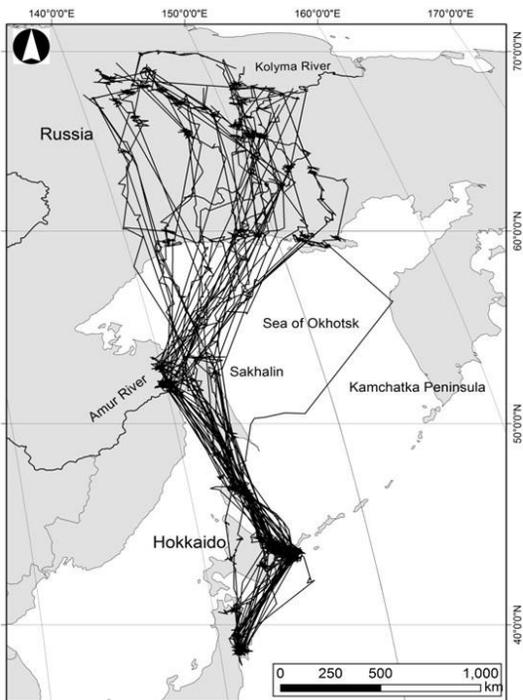


図. オオハクチョウの春の渡り経路。

## ● 講師プロフィール



嶋田哲郎（しまだ・てつお）さん

（公財）宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団研究室長。1969年東京生まれ。学生時代からガンカモ類の研究を行い、1994年に財団研究員に着任。2006年にマガンの越冬戦略と保全をテーマに論文博士として岩手大学より博士（農学）を取得。2020年より現職。2021年10月にガンカモ類の生態を一般向けに解説した“知って楽しいカモ学講座”（緑書房）を発売。